

平成29年度行政事業レビューシート (内閣府)

事業名	地域産品魅力発信事業に必要な経費			担当部局庁	政策統括官(経済財政分析担当)	作成責任者			
事業開始年度	平成28年度	事業終了(予定)年度	平成29年度	担当課室	地方創生推進室	参事官：松家 新治 参事官：原田 一寿			
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な条項も記載)				関係する計画、通知等	未来への投資を実現する経済対策				
主要政策・施策	地方創生			主要経費	その他の事項経費				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	地方創生を推進する観点から、2020年東京オリンピック等で多数の海外旅行者等の訪問が見込まれている。各施設等に訪れる海外旅行者等に対して地域の第一次産品(例：木材)を活用した地域産品のPRを行うため、必要な環境整備を支援する。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	地方創生を推進する観点から、複数の地方公共団体等が連携し、①地域産品を多数の海外旅行者等が来訪する新国立競技場等の会場に導入するための体制を整備するための取組(基礎調査、協議会の実施)、②導入された地域産品の紹介やその魅力を対外的に発信するためのプロモーションイベントの開催、③会場等の管理者・保有者等から求められる仕様等に対応した試作品開発・生産プロセスの改善等の取組を支援する(補助率：1/2等)。								
実施方法	補助、交付								
予算額・執行額 (単位：百万円)	予算の状況	当初予算	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度要求		
		補正予算	-	-	115	0	-		
		前年度から繰越し	-	-	0	115	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	▲115	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
		計	0	0	0	115	0		
	執行額			0					
	執行率(%)			-					
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)			-					
	平成29-30年度 予算内訳 (単位：百万円)	歳出予算目	29年度当初予算	30年度要求	主な増減理由				
地方創生支援事業費補助金		0	0	平成28年度第2次補正予算限りの経費。					
計		0	0						
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
			成果実績	-	-	-	-	-	-
			目標値	-	-	-	-	-	-
			達成度	%	-	-	-	-	-
根拠として用いた 統計・データ名 (出典)									
定量的な成果目標 の設定が困難な場合	定量的な目標が設定できない理由			定量的な成果目標と26～28年度の達成状況・実績					
	地方創生の取組の深化に資するため、事業者のニーズの把握や会場等への導入可能性に関する調査やそれに向けた体制の整備及び、導入に向けた地域産品の変更・改良を促すための試作品開発等を支援するものであり、定量的な成果目標、成果指標を設定することが困難である。								
	代替目標	代替指標		単位	26年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 32 年度
	複数の地方公共団体等が連携して取り組むことにより、地域産品の導入に向けた取組を効果的かつ効率的に推進する。	複数の地方公共団体が連携した取組により、地域産品が導入されることになった事例数	実績	-	-	-	-	-	-
		目標値	-	-	-	-	-	10	
		達成度	%	-	-	-	-	-	

活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	26年度	27年度	28年度	29年度 活動見込	30年度 活動見込
地方公共団体等への交付件数		活動実績	件	-	-	-	-	-
		当初見込み	件	-	-	-	10	-
単位当たり コスト	算出根拠		単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込	
	地域産品魅力発信事業予算総額(X) / 交付件数(Y)	単位当たり コスト	百万円	-	-	-	11.5	
		計算式	百万円/件	-	-	-	115/10	
単位当たり コスト	算出根拠		単位	26年度	27年度	28年度	29年度活動見込	
	執行額(X) / 基礎調査、協議会の実施団体数(Y)	単位当たり コスト	百万円	-	-	-	11.5	
		計算式	百万円/件	-	-	-	115/10	

事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の 必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	2020年東京オリンピック等で多数の旅行者が訪問する施設等では地域産品をPRする機会であり、地方公共団体等からもPRに向けての取組に関して支援の依頼等もあり、国民や社会のニーズを的確に反映している。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	地域産品のPRに当たっては、国と地方公共団体等がお互いの役割のもと協力し取り組みを行っていく。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	非常に大きな国際イベントであることから、多数の海外旅行者等が来訪することとなり、地域産品をPRする絶好の機会である。PRに必要な体制を整備することは地方創生を推進する上で重要な取組であり、国が実施すべき必要な事業で優先度の高いものである。
事業の 効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	-	
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	-	
	競争性のない随意契約となったものはないか。	-	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-	-
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	-	-
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-	-
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	-	-
不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-	-	
事業の 有効性	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	○	2020年東京オリンピック等のイベントにおける実施体制等に関する検討が当初の予定よりも長期にわたって行われたことで、本事業の活用を検討する地方公共団体において事業計画の大幅な変更を検討する意向が示されたことから事前調査及び事業選定に見直しが必要となった。
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	-	-
事業の 有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	-	-
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	-	-
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	-	-
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	-	-
関連 事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-
	所管府省名	事業番号	事業名
点検・ 改善結 果	点検結果	地方公共団体において事業計画の大幅な変更を検討する意向が示されたことから事前調査及び事業選定について見直しが必要となったことにより28年度は執行ができなかった。	
	改善の 方向性	早期の執行に向けた準備を速やかに進めるとともに、予算の効果的・効率的な執行等に努める。	

外部有識者の所見

28年度に執行できなかった理由を踏まえると、今年度(29年度)の実施に当たり、地方公共団体との綿密な事前調整が必要だと思われる。本事業の目的を、より具体化させ、地方公共団体との連携を深めるためにも、外国人へのPR等に経験が豊富な民間事業者を入札にて選考し、アイデアを練ることが必要であろう。

行政事業レビュー推進チームの所見

一 事業
部の
改善
内容

事業を実施するにあたり、地方公共団体との連携を深め、事業の目的をより具体化させる等の取り組みを行い、事業をより効果的に行えるようにするとともに、適切な予算の執行に努めるべき。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

現
状
通
り

御指摘を踏まえ、予算の効果的執行に努めて参りたい。

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	-	/
平成25年度	-	平成26年度	-	平成27年度	-	
平成28年度	-					

※平成28年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
しているかについて
補足する)
(単位: 百万円)

